



# 医学教育学教室だより 第2号

2021年12月20日発行

医学教育学教室 〒181-8611 三鷹市新川6-20-2 電話: 0422-47-5511 (代) Fax: 0422-44-1930

## Contents

- ◆「医師の初期臨床研修マッチング制度について」 教授 富田泰彦…………… 1
- ◆医学教育学教室の沿革② 特任教授 赤木美智男…………… 2
- ◆医学教育学用語集②…………… 3
- ◆卒業生便り② 助教 嶋崎鉄兵…………… 4

## 医師の初期臨床研修マッチング制度について

教授 富田 泰彦



皆さん、こんにちは。医学教育学教室・附属病院総合研修センターの富田泰彦です。今回は、初期臨床研修に関連したマッチング制度について解説したいと思います。

2004年(平成16年)に開始された新しい医師臨床研修制度に伴い、医師臨床研修マッチング協議会が設立され、全国で公平な応募と選考がなされる仕組みができました。この協議会ではその運営委員会での決定に基づき、マッチングスケジュールの管理、研修プログラムに関する情報提供、データ集計、研修病院や個人情報の情報管理、参加者のサポート等を行っています。

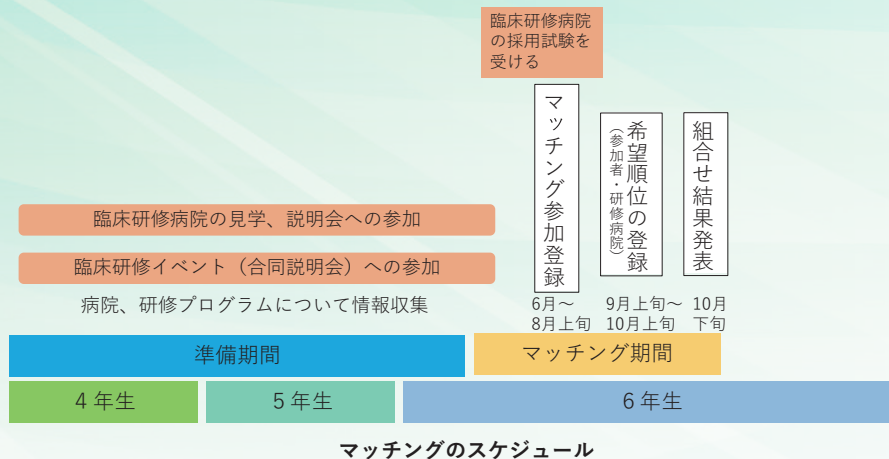
研修医マッチング(組み合わせ決定)とは、医師免許を得て臨床研修を受けようとする希望者と、臨床研修を行う病院(研修病院)の研修プログラムとを、研修希望者及び研修病院の希望を踏まえて、一定の規則(アルゴリズム)に従って、コンピュータにより組み合わせを決定していくものです。集団お見合いのようなシステムと例えられることもあります。

臨床研修病院の情報収集については、早い学生は医学部4年生頃から動き始めます。夏季や春季休暇中に短期実習や見学をしたり、5～6年時の学外クリニックラークシップ(参加型臨床実習)で実習をしたり、レジナビフェア等の就活イベントや各研修病院独自の見学・説明会等に参加したりして、将来の研修先を選定していきます。このような就職に関わる活動

を遅くとも5年生から6年生前半迄には行う必要があります。6年生の6月には医学生自らがマッチング協議会に登録して、6月下旬～9月迄の期間に実施される各臨床研修病院の採用試験を受験します。一般的に採用試験には多少の違いはあるものの、履歴書と共に医学部の成績証明書、4年次の全国共用試験CBT・OSCEの成績や推薦状などの提出が必要とされることがあります。試験の種類としては学科試験や面接試験、小論文などが行われます。10月中旬までに、各受験生は研修を希望するプログラムの順位を(登録するプログラムの数は特に決まっていません)、各臨床研修病院は研修希望者の採用希望順位を登録し、その結果をもとに、10月下旬にマッチング協議会が組み合わせを決定します。

このコロナ禍では感染状況の拡大に鑑みて、対面式の学科試験や面接試験を避けて、web面接と成績証明書やCBT・OSCEの成績で代替する傾向がやや強くなりました。特にCBTの成績は国家試験の成績に相関するという分析もありますので、医学生は6年生になってから後悔しないように、低学年の頃から勉学に励んで頂きたいと思います。

2001年(平成13年)当時、従来の臨床研修制度ではその7割が大学病院で、3割が臨床研修病院で研修を実施していましたが、このマッチング制度により、2009年(平成21年)以降は大学病院よりも臨床研修



病院の人気の高まっています。

2021年（令和3年）10月28日付のマッチングの結果では、マッチング参加者は10,024名（うち希望順位を登録した参加者は9,768名）、全マッチ者は8,958名でした。参加者が希望順位表に登録した研修プログラムの平均数は3.66で、参加病院は1,021病院、研修プログラムは1,375件、募集定員は10,904名でした。

大学病院の希望者数と臨床研修病院の希望者数の割合をみると、臨床研修病院にマッチした医学生は63.3%でした。大学病院と臨床研修病院の内定者数の差は2009年から年々拡大し、近年は臨床研修病院の内定者数は既に6割を超えています。マッチ者数を都道府県ごとに見ると、1)東京都1,239名、2)神奈川県644名、3)大阪府633名、4)愛知県510名、5)千葉県424名の順に多く、都市部に集中する傾向があります。このように、

初期臨床研修においても地域偏在に注視する必要がありますが、将来、どこで研修するかのみ注目するのではなく、将来どこにいても、自ら何を身に付けていくかを考えることが重要です。

ルネッサンス期の芸術家ミケランジェロの晩年のことばに【*Ancora imparo.*】「私は今でも勉強（修行）している」があります。特に人の健康や生命を預かる医師だからこそ生涯勉強です。医学部の6年間や初期臨床研修の2年間は、振り返れば、まさに「光陰矢の如し」、あっという間に過ぎていきます。学生時代から、将来に向けて、日々、しっかりと学力・知力をはじめ、医師に必要とされる素養を生涯かけて身に付けていかねばなりません。

参考ホームページ：  
JRMP 医師臨床研修マッチング協議会 <https://www.jrmp.jp/>

## 医学教育学教室の沿革

2

特任教授 赤木 美智男

創刊号では医学教育学教室が取り組んでいる業務のうち、OSCE、PBLチュートリアル、総合試験についてご紹介しました。今回は、医学生の海外での実習と研修医の臨床研修についてご紹介したいと思います。

### (4) 医学生の海外での臨床実習、語学実習

本学は「グローバル人材育成」を教育方針の一つに掲げており、医学部も海外での臨床実習を学生諸君に勧めてきました。実習の受け入れ先としては当初、教員が留学した大学などに個人的に紹介していただいたりしていましたが、その後は医学部として組織的に受



レスター大学での英語医療面接実習

け入れ先を確保することになり、現在ではアメリカ、イギリス、フランス、中国、フィリピンなどの施設に学生を送っています。また、2016年からはイギリスのレスター大学の医学英語のセミナーにも1年次から4年次の学生を送っています。海外での実習の計画と実施は、主として矢島教授が担当しています。

## (5) 研修医の教育—新しい臨床研修制度への対応—

2004年度から実施された新臨床研修制度は、厚生労働省の省令により、その実施に関して細かな規則が定められており、それに基づいた臨床研修をしなければ研修医は研修修了の認定を受けることができません。各科任せであった研修を統轄する部署が必要となり、それまでの初期臨床研修委員会を卒後教育委員会と改称し、私が副委員長（後に委員長）に任命されました。「卒後教育委員会」としたのは、近い将来臨床研修修了後の各科の専門研修にもかかわることが、付属病院の人材確保のために必要であるとの認識を当時の病院幹部が持っていたためと思われまふ。実施の約2年前から準備を始めました。各科に依頼して初期臨床研修プログラムを作成し、研修医の選考試験を実施し、各研修医のローテーション決め、などやるべ



初期臨床研修修了式

きことは多数あり、また制度に慣れない間は指導医や研修医にも色々苦勞をかけましたが、関係者の協力のお蔭で無事新制度1期生全員を修了させることができました。その後も様々な改良を重ね、本学以外の卒業生もたくさん入ってきてくれるようになっていきました。

(以下次号)

# 医学教育学 用語集<sup>2</sup>

## 研修医・専攻医

### 【研修医】

医学部を卒業して医師国家試験に合格したからといってすぐに一人前の医師になれるわけではありません。他の多くの職業と同じく、先輩（医師とは限りません）の指導の下に現場でのトレーニングを積む必要があります。医師として、「一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付ける」（臨床研修の到達目標）ために、最低2年間の「臨床研修」が2004年度から必修とされており、この期間のトレーニング中の医師を「研修医」と呼びます。研修医の特徴は以下の通りです。

- 医学生とは異なり、医師免許を取得した「医師」であり、侵襲的なものを含めて「医行為」を行う資格を有しています。
- 厳密な条件をクリアした研修病院と協力施設でしか診療を行うことができません。
- 内科、外科、救急分野などの必修科目の他に、選択科目も含めて様々な科をローテーションしながら研修します。
- 先輩達（指導医、上級医）の指導監督の下に診療を

行います。これは、必ずしも先輩医師が常時研修医の傍にぴったりついているということの意味ではありませんが、患者さんに迷惑がかからないチェック体制を敷いているということです。他の医療者（特に看護師）の眼も光っています（研修医は医師以外の医療者からも評価を受けなければなりません）。

### 【専攻医】

臨床研修を無事修了すると、こんどは専門領域のトレーニングが始まります。2017年度から始まった新しい専門医制度では、19の「基本領域」（内科、小児科、皮膚科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、形成外科、リハビリテーション科、総合診療）のいずれかの「専門医」になるための3～5年間のプログラムが、これも厳密な条件をクリアした研修施設（基幹施設と連携施設）に用意されています。専門研修を修了すると認定試験を受け、合格したら「〇〇専門医」の資格が授与されます（〇〇は基本領域の名前）。この専門領域のト

レーニング中の医師を「専攻医」と呼んでいます。

医学生が「医師の卵」とすれば、研修医は「ひよこ医師」と言えるでしょうか。どんな良医、名医にもひよこの時期がありました。ひよこゆえに至らぬことがあるとは思いますが、将来の良医、名医の育成のために御協力をお願い致します。研修医がひよこなら

専攻医はトサカができかけの若鶏のようなものかもしれませんが、自分で選んだ専門領域で毎日「その道のプロ」を目指して研修に励んでいる存在ですので、医師のキャリアの中では最も成長が著しい時期と言えます。ベテラン専門医が後ろで見守っていますので、安心して専攻医に診療をお任せいただきたいと思います。(赤木)

## 卒業生便り

嶋崎先生は今から10年以上前の学生時代に、USMLE (米国医師免許試験) STEP 1などに合格しました。でも、先生の目的は米国で働くことではなかったようです。

## 学びを楽しむこと ～この10年に力を尽くして～

助教 (総合医療学・感染症科) **嶋崎 鉄兵**  
(2006年3月卒)



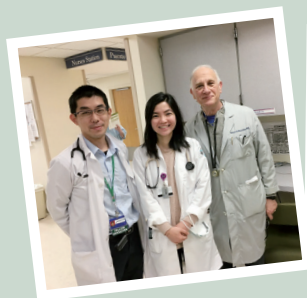
カルテ回診中 (嶋崎先生右端)

学生時代から今に至るまで、良き臨床医となるためには何が必要であるかを模索し続けています。杏林大学を卒業後、臨床医としての経験を積むため、縁もゆかりもない沖縄にわたり、研修病院としての歴史の長い沖縄県立中部病院にて初期研修・後期研修を行いました。その後、感染症医としてのさらなるトレーニングを求め、渡米、ハワイ大学にて2回目の内科レジデンスを行い、その後シカゴのRush大学にて感染症のフェローシップ (専門研修)、リサーチフェローを経て2018年に杏林大学に復帰しています。

杏林大学での学生時代の学びを起点に、沖縄、ハワ

イ、シカゴで多くの指導医から影響を受け、自分なりにかみ砕いたエッセンスを、後輩のみなさんとシェアしていければと考えています。

これから医師を目指す皆様への唯一のアドバイスは、学びを楽しむこと。特に、医学生時代は、自分自身のために多くの時間を自由に使うことのできる貴重な期間です。宮崎駿監督の“風立ちぬ”という作品の中で、「創造的な人生の持ち時間は10年だ。設計家も芸術家も同じだ。君の10年を力を尽くして生きなさい。」といったセリフがあります。まずは10年、力を尽くして頑張ってください。



### 編集後記

10月28日はマッチング結果の発表日でした。本号では、医学生のいわば就職試験であるマッチング制度について、コロナ禍における試験方法の傾向も含め、富田泰彦先生に分かり易く解説をしていただきました。(小宮)